

捨てないで！！



水に濡れた歴史資料は乾燥できます！！

おうちにある和書・古い本・新聞・記録・アルバム・写真等は、乾かせます！！
これらは家の大切な記録であり、また地域の歴史を知る重要な手がかりになります。

捨てる前に、まず史料ネットにご相談ください！



歴史資料ネットワーク(史料ネット)

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内
電話&FAX：078-803-5565

歴史資料とは？

- ◎古文書（くずした文字で和紙に書いたものなど）
- ◎古い本（和紙に書かれて冊子にしてあるものなど）
- ◎明治・大正・昭和の古い本・ノート・記録（手紙や日記など）・新聞・写真・絵
- ◎古いふすまや屏風（古文書が下貼りに使われている場合がよくあります）
- ◎自治会などの団体の記録や資料
- ◎農具、機織りや養蚕の道具、古い着物など、物づくりや生活のための道具など

私たち、歴史資料ネットワーク（事務局・神戸大学文学部内）は、1995年に発生した阪神・淡路大震災の被災地で、歴史資料をはじめとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた、歴史研究者を中心としたボランティア団体です。私たちは、その際に、全国の歴史学会など関係団体から支援をうけて、自治体や市民と協力しながら、地域社会の民間資料の救出や文化財の被害調査などをおこなってきました。これまで、2009年の兵庫県佐用町・宍粟市での水害や、2011年の東日本大震災など、各地で発生する地震や水害の被災地において、歴史資料の保全・再生に取り組んでまいりました。

私たちがこのような活動を行ってきたのは、災害が起きるとそれを契機に家や蔵に古くから置かれていた歴史資料が破棄・処分・売却されてしまうことがよくあるからです。

文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料ではありません。昔の人の暮らしぶりなど、地域や家族の歴史を知る手がかりとなるものすべてが歴史資料です。

家々にはさまざまな形で家の記録や地域の歴史を伝えるものが数多く残されています。しかし、災害により長く伝えられてきた古い文書や記録などがなくなってしまうとすれば、それは家にとっても地域にとっても残念なことといわざるをえません。

これらのものは母屋や蔵、あるいはその中の箱やタンス、長持・行李などに収められています。一見すれば紙くずやゴミのように見えるものでも、実際には貴重な歴史資料である場合がよくあります。

歴史資料ネットワーク

〒657-8501

神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内

電話&FAX：078-803-5565

メール：s-net@lit.kobe-u.ac.jp

ホームページ：http://siryo-net.jp

水濡れ史料の吸水乾燥方法

古い記録、古文書(こもんじょ)、写真・・・残しておきたいものを捨てないですむように、ご家庭でできる簡単な処置方法をご紹介します。もっとも、完全に乾かすためには、専門家の技術が必要です。お困りになった際は、いつでもご連絡ください(裏面)。相談に応じます。

◆◆やってはいけないこと◆◆

- * 冊子を無理にこじあげないでください。
- * 天日やアイロン・ドライヤーなどで急激に乾燥させないでください。電子レンジでの乾燥も歴史資料を傷めます。
- * とにかく捨てないでください！
⇒迷った際はすぐにご連絡を！

◆◆応急措置の方法◆◆

全てを行う必要はありません！電気や水道のライフラインの復旧状況が許す範囲内で対応してください。

【用意するもの】



ペーパータオル(キッチンペーパー)・エタノール
スプレーボトル(霧吹き/エタノールを史料に噴霧する際に利用)
新聞紙・マスク・ゴム手袋(薄手のもの)
竹べら・水をはったパレット

【作業を行うにあたっての留意】

- * エプロンか作業着を着用。あるいは汚れてもいい服装で行う。
- * **マスクは必ず着用すること。**また、エタノールを扱う際にはゴム手袋を着用すること。
- * 常に換気を行うこと(可能であれば除湿機の作動、扇風機での送風を加える/空気清浄機を作動させることができればなおよい)。
- * 30分に1回は必ず休憩をはさむこと(長時間連続で作業に従事することがないように心がける)。
- * 作業終了後、うがい、手洗いを必ず行うこと。
- * 指輪・時計・ブレスレット・ネックレス・ヘアピンなど、史料に損傷を与える危険のあるものははずしておく。袖の釦(特にカフス等)が気になる場合は、腕まくりしておく。

【紙の歴史資料について】

◆◆軽い水濡れの場合◆◆

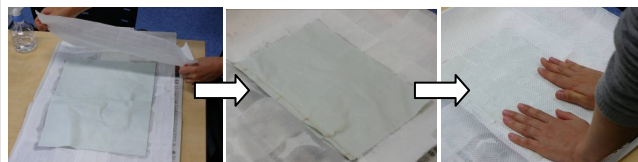
- * 防カビのため消毒用エタノール(エチルアルコール)を噴霧してください(可能であれば一日一回)。
- * 直射日光の当たらない、通気性のよい場所で陰干しをしてください。



い。室内で乾かす場合は、可能であれば、扇風機などを利用し、空気が循環するように心がけてください。ただし、歴史資料に直接風をあてるのは避けてください。

◆◆水濡れがひどい場合(応急措置)◆◆

- ①新聞紙の上にペーパータオルを敷き、そのうえに史料をのせる。
- ②ページが開きそうな箇所を確認し、ページを開く。開きにくい場合は、竹べらを用いて展開する。
*必ずしも一枚ずつページを展開する必要はない。
*臭いがきつい場合はページ全体にエタノールを噴霧すること。
- ③開いたページにペーパータオルを挿入し、一度冊子を閉じる。表紙の上にペーパータオルをもう一枚置き、その上から軽く押さえてペーパータオルに水分を移動させる(吸水させる)。
*必ず一度冊子を閉じること。開いたまま押さえると、綴じを傷める可能性がある。



ペーパータオルをはさむ

史料を一度閉じた状態

軽くおさえる

- ④再びペーパータオルを挿入したページを開き、挿入したペーパータオルを抜き取る。新しいペーパータオルを用意したのち、別のページを開く。
- ⑤②～④の繰り返し。エタノールの噴霧、綴じの部分の水気をとることは、意識して入念に行うこと。
- ⑥全てのページが展開できるようになり、かつ触った際に水分が手のひらに移らなくなったら、作業完了。あとは風通しのいい場所で史料を陰干しする。
*直射日光に当てないこと。史料の変形・劣化・退色が生じる。

◆◆泥などの汚れ、カビなどにより損傷がひどい場合◆◆

- * 泥のカタマリなど、落とせるものは落としてください。消毒用エタノール(エチルアルコール)を噴霧し、そのままの状態ではビニール袋に入れます。封はとくにしないでください。
⇒この段階で一度、必ずご連絡を入れてください。専門処理機関に真空凍結乾燥法や吸水乾燥法により乾燥させます。乾燥作業が終了した後に、お返いたします。
- * 防カビのための処置で最もよいのは、冷凍凍結です。ご家庭の冷凍庫でも対応可能です。

【写真の場合】

- * 写真プリントは、清潔な水をはった容器の中でゆっくりゆすって汚れを落とします(汚れをぬぐわないでください)。あとは洗濯バサミなどで写真の端をとめて吊るし、直射日光の当たらない、通気性のよい場所で陰干ししてください。
- * 写真のネガ・フィルムも直射日光の当たらない、通気性のよい場所で陰干ししてください。

地域や家族の歩みを伝える貴重な歴史資料を守る活動に
何とぞご理解・ご協力いただきますようお願い申し上げます。